

久瑠あさ美の  
奇跡のビジョン

# “気持ち”ひとつで 未来が動く



くる・あさみ

トップアスリートや経営者、ビジネスパーソン向けに、個人メンタルトレーニングを行う傍ら、リーダー研修や講演会など、活動は多岐にわたる

## 信じることで パフォーマンスを 引き出そう

「勘違いの才能」はあなたの潜在能力を引き出してくれます。

いわゆる天才にあつて凡人にないもの、それが勘違いの才能。

天才は「無い」ものを「在る」と言います。たとえば、クライアントから「いま企画書ある？」と、突然、振られた場合、たとえ準備された企画書がなかったとしても、「あります、いつ伺

いますか？」と答える。天才は、まだ起きていなくとも、現実のものとして扱えるのです。

私は、メンタルトレーニングの中で「今のあなたは100点満点で何点ですか」という質問を投げかけます。

「80点」と自信満々の人。「40点です」と自信なさそうに答える人、さまざまです。実は100点満点で「40点」と答える人の無意識は「マイナス60点」です。「80点」の人も「マイナス20点」という足りない何かを感じ取っているのです。「あそこでミ

## 限界なんて意識しない 天才の思考回路

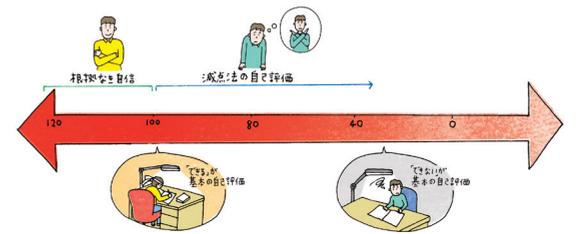
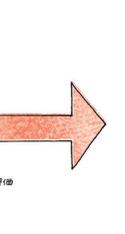
スしたから、マイナス20点だな」などと通常は、自分のマイナス点を探してしまうのです。

こうした思考法の真逆のところに、自分のプラスを加算できる「天才」が居るのです。自分の枠を飛び越えて、不可能を可能にすることができる人は、自己評価の質にこう答えます。

「120点ですかね」

こういう人が本当にいます。これこそが、「勘違いの才能」といっていいでしょう。

自己パフォーマンスを減点法で捉えてしまつては限界を超



### 自分の“いま”を採点してみよう

100点というポイントに、平凡か非凡かの境がある。自分を加点法で採点できるのか、減点法となってしまうのか。常に最高の自分を目指す

ゴルファーに例えると……

プレッシャーを感じなければ  
ゴルフは変わる!?

苦手なパー3のティショットは、さまざまな考えがよぎる。「1オンしないかも」と考える人は、100点以下の採点をする人。マイナス20点の意識が、乗らない可能性を引き出す。100点をつける人は「乗せなければ」と考える人。1オンしなければ100点ではなくなるので、意識がマイナス方向へと向かってしまう。

そしてシンプルに「乗せたい」と信じる人こそが、120点の天才。そんな人には、バーティ、ホールインワンといった、さらなる高み待ち構えているのである。

「信じたい」ではなく  
120%「信じてみる」。  
それが、未来の自分を  
大きく飛躍させる

未来が  
動く 今月の  
ひとこと